

令和元年度

教育に関する事務の点検・評価報告書

〔平成30年度事業対象〕

佐野市教育委員会

(はじめに)

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が一部改正され(平成20年4月1日施行)、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとなりました。

これを受けて、佐野市教育委員会では、効果的で効率的な教育行政の一層の推進を図るとともに、市民に対する説明責任を果たすことを目的に、学識経験者の知見をいただきながら事務報告書を基にした平成30年度実施事業の点検・評価を行い、報告書を作成いたしましたので公表します。

令和元年10月
佐野市教育委員会

(参考)「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(抜粋)

第26条(一部省略)

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

1	点検・評価の対象及び方法	1
2	教育委員会活動	2
3	教育委員会事務局各課	
(1)	教育総務課	3
(2)	学校適正配置推進課	8
(3)	学校教育課	10
(4)	教育センター	16
(5)	学校給食課・学校給食センター	19
(6)	生涯学習課・少年指導センター	23
(7)	文化財課	29
(8)	郷土博物館・葛生化石館・葛生伝承館	32
(9)	吉澤記念美術館	38
(10)	公民館管理課	41
4	全体を通しての委員からの意見	45

1 点検・評価の対象及び方法

(1) 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、佐野市総合計画に基づき実施した事務事業とした。

(2) 点検・評価の方法

平成30年度に佐野市教育委員会が実施した、佐野市総合計画に基づく269の事務事業のうち数事業を各課で選択し、考察した。

また、学識経験者の知見の活用を図るために、事務事業評価委員からの意見をいただいた。委員の方は次のとおりである。

(敬称略)

氏名	経歴等
片柳 岳巳	元佐野市教育委員会委員
白澤 幸治	元佐野市代表監査委員
北川 嘉男	元佐野市小中学校長会長

2 教育委員会活動

1 組織

- ・教育長 1 名、教育委員 4 名

2 教育委員会の活動状況

(1) 委員会の開催

定例会 臨時会の別	開催回数	付議事件件数	
		議案	報告
定例会	12	58	14
臨時会	1	1	0

(2) 研修会等

事業名	期日	場所	内容
佐野市教育委員会委員視察研修	平成30年10月22日 ～23日	神奈川県大井町 埼玉県草加市	・ICTを活用した授業づくりについて
栃木県市町村教育委員会連合会研修会	平成30年11月7日	栃木県庁研修館 「講堂」	・講演 「新学習指導要領の円滑な実施に向けて」 ・講師 栃木県教育委員会事務局学校教育課長 中村 千浩 氏
安足地区市町村教育委員会連合会教育委員研修会	平成30年10月29日	史跡足利学校 足利市立美術館	・国宝書籍特別公開 史跡足利学校企画展「元号」等 見学、説明 ・講師 史跡足利学校事務所 所長 大澤 伸啓 ・足利市立美術館企画展「長重之展」鑑賞 ・説明 足利市立美術館 館長 大森 哲也

(3) その他

学校訪問実施や小中学校卒業式、成人式などの各種行事への出席。

3 教育委員会事務局各課

(1) 教育総務課

1 組織、事務分掌及び職員（平成30年4月1日現在）

区 分	主 な 事 務 分 掌	職員数 (人)
課長	課内全般	1
総務係	教育委員会の議事及び秘書、栄典及び褒賞、育英事業、学校予算の配分及び執行管理、教具及び教材の整備、スクールバスの運行管理、部及び課の庶務	5
学校施設係	学校施設の設置、管理及び廃止、敷地の選定及び変更、学校施設の営繕保全の計画及び実施、安全及び環境整備	8
小学校用務員	小学校施設の営繕保全、環境整備	2
中学校用務員	中学校施設の営繕保全、環境整備	5
計		21

2 点検・評価

教育総務課は、佐野市総合計画に基づき、平成30年度に32の事務事業を執行した。

その中の主な事務事業として、奨学資金貸付事業、小・中学校外構改修事業について、次のとおり考察した。

(1) 奨学資金貸付事業

基本目標	豊かな心を育み、学び合うまちづくり											
政 策	豊かな心と確かな学力を育むまちづくり											
施策名	安全で安心して学べる教育環境の整備											
基本事業名	教育の機会均等に資する奨学金制度の拡充											
事業概要及び実施状況	<p>○貸付金の内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>入学一時金</th> <th>奨学金（毎月）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高等学校等</td> <td>50,000円以内</td> <td>20,000円以内</td> </tr> <tr> <td>大学等</td> <td>100,000円以内</td> <td>50,000円以内</td> </tr> </tbody> </table> <p>○奨学生の定数：毎年度45人以内（予算内）</p> <p>○奨学金の返済は、貸与期間終了後1年経過した年の翌月から、貸与期間の2倍に相当する期間内とする。</p> <p>・募集期間：平成29年12月1日から平成30年1月12日まで 応募者25人、辞退者2人、貸与確定者23人</p>			区 分	入学一時金	奨学金（毎月）	高等学校等	50,000円以内	20,000円以内	大学等	100,000円以内	50,000円以内
区 分	入学一時金	奨学金（毎月）										
高等学校等	50,000円以内	20,000円以内										
大学等	100,000円以内	50,000円以内										

	<ul style="list-style-type: none"> ・追加募集：平成30年4月3日から4月19日まで 応募者3人、貸与確定者3人 ・応募内容は、大学・専門学校生22人、高校生6人で、佐野市奨学生選考委員会により、全員が新規貸付利用者に決定したが、辞退者が2人あり、新規貸与者は26人となった。 ・全体の利用者内訳は、大学・専門学校生116人、高校生9人の合計125人であった。
考 察	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度の当初募集では23名の貸与者となり、定員に若干の余裕があったため、4月に追加募集を行った。追加募集では3人の応募があり、合計26人が貸与確定となった。 ・定数以下の応募となったため、応募者全員に貸与を確定することができた。今後の状況をみながら制度内容の検討を行い、事業推進に努めていきたい。 ・滞納者について、平成29年度は25名 未納総額 7,486,000 円が、平成30年度は27名 8,186,000 円となり、滞納者数、未納総額とも増加となってしまった。今後も、督促状および電話などで、本人及び連帯保証人への督促を強化し、財源の確保をし、成果を上げていきたい。

(2) 小・中学校外構改修事業

基本目標	豊かな心を育む教育・文化づくり
政 策	豊かな心と確かな学力を育むまちづくり
施策名	安全で安心して学べる教育環境の整備
基本事業名	安全で快適な学校施設の整備
事業概要及び実施状況	<p>○事業概要</p> <p>平成30年6月に起きた大阪北部を震源とする地震によるブロック塀の倒壊被害を受け、市内の小中学校の緊急点検を実施するなかで、高さや控え壁の基準など明らかに法令不適合となるものについて外構施設の改修を行った。</p> <p>本事業は平成30年7月に市長の専決処分により補正予算化したのち、危険なブロック塀をネットフェンスに更新する工事を4工区に分割し発注した。</p> <p>○実施状況</p> <p>1. 西中学校外外構改修工事</p> <p>対象校：天明小学校、旗川小学校、西中学校</p> <p>期間：(当初)平成30年8月17日～平成30年11月30日 (変更) ～平成31年1月19日</p> <p>請負業者：(株)並木土建</p>

請負金額：20,250,000円 請負率：96.90%

最終請負額：21,470,400円（変更増額：1,220,400円）

工事内容：ブロック塀をネットフェンスに更新する

天明小学校外構改修工事（総延長：34.08m） 2箇所

旗川小学校外構改修工事（総延長：36.50m） 1箇所

西中学校外構改修工事（総延長：236.90m） 3箇所

2. 界小学校外外構改修工事

対象校：界小学校、南中学校

期間：平成30年8月20日～平成30年11月30日

請負業者：朝日建設（株）

請負金額：21,556,800円 請負率：96.99%

最終請負額：21,643,200円（変更増額：86,400円）

工事内容：ブロック塀をネットフェンスに更新する

界小学校外構改修工事（総延長：219.29m） 5箇所

南中学校外構改修工事（総延長：125.60m） 3箇所

3. 犬伏小学校外外構改修工事

対象校：犬伏小学校、城北小学校、北中学校

期間：（当初）平成30年8月21日～平成30年11月30日

（変更） ～平成31年1月21日

請負業者：（株）秀和建设

請負金額：23,760,000円 請負率：96.70%

最終請負額：25,725,600円（変更増額：1,965,600円）

工事内容：ブロック塀をネットフェンスに更新する

犬伏小学校外構改修工事（総延長：239.97m） 5箇所

城北小学校外構改修工事（総延長：53.50m） 1箇所

北中学校外構改修工事（総延長：48.50m） 1箇所

4. 常盤小学校外外構改修工事

対象校：赤見小学校、石塚小学校、田沼小学校、常盤小学校、常盤中学校

期間：（当初）平成30年8月23日～平成30年11月30日

（変更） ～平成31年1月25日

請負業者：岡田土建（株）

請負金額：12,690,000円 請負率：94.61%

最終請負額：13,068,000円（変更増額：378,000円）

工事内容：ブロック塀をネットフェンスに更新する

赤見小学校外構改修工事（総延長：56.70m） 1箇所

	<p>石塚小学校外構改修工事(総延長:30.80m) 1箇所</p> <p>田沼小学校外構改修工事(総延長:68.10m) 3箇所</p> <p>常盤小学校外構改修工事(総延長:68.65m) 1箇所</p> <p>常盤中学校外構改修工事(総延長:15.30m) 1箇所</p>
考 察	<ul style="list-style-type: none"> ・危険なブロック塀を除却し、安全なネットフェンスに改修したことで安全で安心した教育環境を確保することができた。 ・ブロック塀の一部を解体し構造を確認するなどの調査が必要な箇所もあり、安全な学校施設の維持のために、令和元年度に計画的な調査、改修を行い、施設の機能向上を図りたい。

委員からの意見

- ・奨学資金貸付事業について、収納担当課と協力しながら引き続き、督促等による滞納者に対する対策をお願いしたい。
- ・ブロック塀について学校の塀だけでなく、子どもが通る通学路等の危険なブロック塀についても把握をお願いしたい。

前年度の委員からの意見及び報告

【意見】

奨学金貸付事業について、滞納が増えているようだが、回収した金額も増えているので、引き続き、督促等による滞納者に対する対策をお願いしたい。

【報告】

平成30年度は督促状の発送を延べ62件、電話催告を延べ30件、臨戸訪問を延べ10件行い過年度分1,507,000円の返還があった。令和元年度は7月2日現在において、過年度分305,000円返還があり、3名が過年度滞納分を完納した。今後も郵送、電話、臨戸訪問等による督促を継続していく。

【意見】

トイレの洋式化について施設内のトイレだけでなく、外に設置されているトイレについても洋式化をお願いしたい。

【報告】

令和元年と令和2年の2か年で、小中学校のトイレの洋式化率50%の達成を現在の整備目標として整備している。

本整備と併せ、屋外のトイレの洋式化についても各校の状況を確認しながら整備を検討する。

【意見】

プールのろ過装置の改修について、老朽化が進んでいるようなので、改修がなるべく遅れないよう計画的に実施してほしい。

【報告】

平成 30 年度事業（繰越事業）としてプールろ過装置の改修は天明小学校、城北小学校、
栃本小学校の 3 校において実施した。今後は、令和元年度に策定する学校施設長寿命化計
画に基づき、計画的な改修を進めていく。

(2) 学校適正配置推進課

1 組織、事務分掌及び職員（平成30年4月1日現在）

区分	主な事務分掌	職員数 (人)
課長	課内全般	1
学校適正配置 推進係	小中学校の適正規模及び適正配置の推進	2
計		3

2 点検・評価

学校適正配置推進課は、佐野市総合計画に基づき、平成30年度に5つの事務事業を執行した。その中の主な事務事業として葛生・常盤中学校区小中一貫校整備事業について、次のとおり考察した。

(1) 葛生・常盤中学校区小中一貫校整備事業

基本目標	豊かな心を育み、学び合うまちづくり
政策	豊かな心と確かな学力を育むまちづくり
施策名	安全で安心して学べる教育環境の整備
基本事業名	市立学校の適正規模・適正配置の推進
事業概要及び実施状況	<p>○事業概要</p> <p>複式学級解消を目的とした葛生地区施設一体型小中一貫校の平成34年度開校にあたり、校舎等の建設に取り組み、学校環境整備を進める。</p> <p>○実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葛生・常盤中学校区小中一貫校基本調査業務委託 期間：平成30年7月6日～平成31年3月8日 請負業者：土澤設計 請負金額：15,822,000円 業務内容：既存校舎老朽度調査業務 基本調査業務 ※既存建物を全面的に改修し活用 ・葛生・常盤中学校区小中一貫校地質調査業務委託 期間：平成31年1月21日～平成31年3月8日 請負業者：第一測工(株) 請負金額：3,456,000円 業務内容：敷地の地質調査業務 ボーリング及び標準貫入試験 4箇所 ・葛生中学校アスベスト含有分析調査 期間：平成30年11月9日～平成30年12月7日 請負業者：株式会社 環境ラボ

	請負金額：４００，６８０円 業務内容：葛生中学校校舎外壁外アスベスト含有調査
考 察	・葛生・常盤中学校区小中一貫校の環境整備については、令和４年４月の開校が予定されているため、平成３０年度は葛生中学校の測量、耐力度調査等の基礎調査、アスベスト含有調査を、令和元年度当初に既存校舎改修の実施設計を発注できるよう実施した。

委員からの意見

- ・佐野市内の学校がすべて施設一体型小中一貫校になるまで 25 年かかるということで、しばらくの間、小中一貫校と従来の小中学校が混在する形になる。一貫校では一部、教科担任制となり、従来の小学校は今までどおりとなる。専門の先生が授業をした方が、学力が向上するというデータもあるようなので、従来の小学校でも教科担任制の導入や、加配教員・さわやか教育指導員を配置する等、学力に差が出ないように工夫してほしい。
- ・下校時に児童が学校から子どもクラブに向かうまでの児童の安全確保をしっかりとってほしい。

前年度の委員からの意見に対する報告

【意見】

葛生地区の小中一貫校の設置場所について一本化できたようで良かった。

【意見】

小中一貫校になることで、児童生徒の通学時間・距離が長くなる。経費は掛かるかもしれないが児童生徒の安全のためにスクールバスを活用してほしい。

また、下校時や夏休み期間等の運行についても実情に合わせて配慮してほしい。

【報告】

「あそ野学園義務教育学校」「葛生義務教育学校」とも開校準備委員会の通学部会において、スクールバス運用について検討しているところである。

【意見】

通学の特例について、通学する学校の選択が必要な児童に対し、きめ細かな対応をお願いしたい。

【報告】

令和２年４月開校の「あそ野学園義務教育学校」については、佐野市立小中学校指定学校変更審査基準要綱の改正、夏休み中に該当児童及び保護者を対象にした意向調査と学校見学を実施する予定である。

(3) 学校教育課

1 組織、事務分掌及び職員（平成30年4月1日現在）

学校教育課

区 分	主 な 事 務 分 掌	職員数 (人)
課長	課内全般	1
学務係	学齢児童生徒の就学、児童生徒の入学・転学・退学、教育支援委員会に関する事務、就学援助、医療扶助、保健衛生及び学校保健会に関する事務、日本スポーツ振興センターに関する事務、教科用図書無償給与、課の庶務	3
教職員係	県費負担教職員の任免等に関する事務、教職員に係る報告・届出・証明、教職員の研修、教職員の保健衛生、学校評議員に関する事務	2
指導係	教育課程及び学習指導や児童・生徒指導等に関する指導助言、研究学校の研究推進に関する指導助言、教科用図書採択及び教師用教科書・準教科書・副読本等の配付にかかる事務、ALT及び日本語教室の指導員の配置、さわやか教育指導員、さわやか健康指導員、特別支援学級支援員の配置	8
計		14

2 点検・評価

学校教育課は、佐野市総合計画に基づき、平成30年度に69の事務事業を執行した。その中の主な事務事業として、小・中学校就学援助事業、小・中学校健康管理支援事業、さわやか教育指導員配置事業について、次のとおり考察した。

(1) 小・中学校就学援助事業

基本目標	豊かな心を育み、学び合うまちづくり
政 策	豊かな心と確かな学力を育むまちづくり
施策名	特色ある教育と心の教育の推進
基本事業名	生きる力の育成
事業概要及び実施状況	<p>○事業概要</p> <p>経済的理由によって、就学困難と認められる児童生徒の保護者に対して、給食費、学用品費、医療費等の必要な援助を行い、義務教育の円滑な実施に資する。</p> <p>また、要保護、準要保護を除く特別支援学級に就学する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、その負担能力の程度に応じ、就学のため必要な給食費、学用品費等の一部を援助し、特別支援教育の振興に資する。</p>

	<p>○平成30年度の支給状況</p> <p>就学援助</p> <table> <tr> <td>小学校</td> <td>325人</td> <td>19,742,311円</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>160人</td> <td>15,812,936円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>485人</td> <td>35,555,247円</td> </tr> </table> <p>特別支援教育就学奨励費</p> <table> <tr> <td>小学校</td> <td>194人</td> <td>7,052,445円</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>46人</td> <td>2,399,774円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>240人</td> <td>9,452,219円</td> </tr> </table>	小学校	325人	19,742,311円	中学校	160人	15,812,936円	計	485人	35,555,247円	小学校	194人	7,052,445円	中学校	46人	2,399,774円	計	240人	9,452,219円
小学校	325人	19,742,311円																	
中学校	160人	15,812,936円																	
計	485人	35,555,247円																	
小学校	194人	7,052,445円																	
中学校	46人	2,399,774円																	
計	240人	9,452,219円																	
考 察	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が心豊かに充実した学校生活を送るためには、保護者への経済的支援は不可欠である。平成30年度においても、適切な事務の執行を実施した。その結果、支給率は8.41%であった。 ・経済的理由により就学が困難な児童生徒は増加傾向にあり、その支援は必要であると考え、平成29年度から認定基準を「総収入額」から「総所得額」に変更した。これにより、援助率は平成28年度には4.22%であったのが、平成29年度には5.52%に増加した。 ・今後、必要に応じた基準の見直し等を検討することで成果向上を図ることができる。 																		

(2) 小・中学校健康管理支援事業

基本目標	豊かな心を育み、学び合うまちづくり								
政 策	豊かな心と確かな学力を育むまちづくり								
施策名	特色ある教育と心の教育の推進								
基本事業名	生きる力の育成								
事業概要及び実施状況	<p>○事業概要</p> <p>県費負担教職員に対し、ストレスチェックを行うことにより、自身のストレスの程度を把握し、ストレスへの気付きを促すとともに、ストレスの原因となる職場環境の改善につなげ、働きやすい職場づくりを推進し、教職員がメンタルヘルス不調となることを未然に防止するために実施する。さらに、高ストレス者のうち希望する者に対し、産業医による面接指導を実施する。</p> <p>○平成30年度の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスチェック実施対象者 712人 <table> <tr> <td>組合員</td> <td>90円×603人=54,270円</td> </tr> <tr> <td>組合員以外</td> <td>120円×109人=13,080円</td> </tr> <tr> <td>消費税(8%)</td> <td>5,388円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>72,738円</td> </tr> </table>	組合員	90円×603人=54,270円	組合員以外	120円×109人=13,080円	消費税(8%)	5,388円	計	72,738円
組合員	90円×603人=54,270円								
組合員以外	120円×109人=13,080円								
消費税(8%)	5,388円								
計	72,738円								

	<ul style="list-style-type: none"> ・面接指導実施者 1人 希望対象者 19,050円×1人=19,050円
考 察	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人一人がストレスチェックを実施したことにより、ストレスの程度を理解することができた。また、学校ごとの集団分析結果を各学校へ送付し、実態把握を図ったことにより、職場環境の改善に役立てるために一助となった。 ・高ストレス者に対し、産業医による面接指導を行えたことにより、高ストレス者の心理的負担の軽減を図ることができた。

(3) さわやか教育指導員配置事業

基本目標	豊かな心を育み、学び合うまちづくり
政 策	豊かな心と確かな学力を育むまちづくり
施策名	特色ある教育と心の教育の推進
基本事業名	生きる力の育成
事業概要及び実施状況	<p>○事業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度から所管が教育センターから学校教育課に移行する ・市内各小中学校に臨時嘱託員「さわやか教育指導員」を配置し、児童生徒に対する教育相談や活動の支援を通して、児童生徒が安心して学校生活を送り、「知・徳・体」のバランスのとれた学力が備わるようにする。 <p>平成30年度も昨年度同様、小学校45名、中学校14名、合計59名を配置した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に、教育上支援が必要な児童生徒が在籍する学級を中心に配置できるように計画した。 <p>小学校は1日5時間、中学校は1日6時間勤務。時給はいずれも1,240円。最大年間200日分の報酬を支払った。</p> <p>なお、年次有給休暇は18日取得が可能となっている。</p> <p><決算状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算 93,619,000円 ・決算 90,106,130円
考 察	<p>【児童生徒とのかかわり】</p> <p>○年度末の各小中学校長による総合的な評価では、「大変効果がある。」と回答した割合が100%であった。また、授業補助者としての効果は、「大変効果ある。」と回答した割合が89%、「効果がある。」と回答した割合が11%であった。</p> <p>○休み時間等の児童生徒の交流相手としての効果については、「大変効果ある。」と回答した割合が83%、「効果がある。」と回答した割合が17%であった。</p>

- 児童生徒の相談役としての効果については、「大変効果ある。」と回答した割合が69%、「効果がある。」と回答した割合が31%であった。
 - 指導・支援の個別化という面では、学習、生活など様々な場面で有効に働いていると考えている。
 - 通常学級在籍で個別の支援が必要な児童生徒に対して寄り添いながら、きめ細かな指導・支援を行っており、児童生徒の達成感につながっていると考えられる。
 - 小学校では、1年生入学から夏休み頃までの期間の支援に多大な効果があり、各学校の1年生たちがスムーズにスタートすることができるようになっていっていると考えられる。
 - 小規模校においては、複式学級での「わたり」形式授業におけるT2としての教育効果が大きいと考えている。
 - 外国籍の児童生徒、配慮を要する児童生徒等への個別支援が適切に行われていると考えている。
 - 中学校では、入学時や受験期の生徒たちの心が不安定になる時期に、生徒たちに寄り添い、声掛けするなど、担任が多忙な時期にも主体的に生徒たちのサポートをすることができている。
- 【教職員とのかかわり】
- 学級担任と連携をすることにより、児童生徒指導上の効果が高く、また児童生徒の学力保障につながっていると考えている。
 - 全学年の授業に出ている場合も多く、学習の系統性に配慮した学習支援ができています。
 - 理科・体育の授業では、授業準備の支援、児童生徒の安全面の確保など、適切に授業支援がなされている。
 - 学校行事や校外学習の補助として効果が大きいと考えられる。

〈課題〉

- ・学校現場では、個別の支援を要する児童生徒も多く、さわやか教育指導員の役割は大きい。さわやか教育指導員のさらなる増員が求められている。
- ・外国籍の児童生徒の転入も増加傾向にあり、市街地だけでなく、市内広い範囲に転入してきている。さらには使用している言語も多様化しているため、個別対応が難しい場面が多くなってきている。

委員からの意見

- ・就学援助について、現在は所得証明等の書類によって審査しているが、今後は、訪問による現状の把握も必要になってくると思われる。すぐにではないが検討をお願いしたい。
- ・健康管理支援事業について、教職員のストレスを把握し、業務改善等につなげてほしい。また、併せて、児童・生徒のストレスチェックもお願いしたい。

- ・外国籍の児童生徒が増加傾向にあるので日本語教室の加配教員の確保をお願いしたい。
- ・近年、親の暴力で子どもが亡くなる事件が起きている。佐野市でも起こらないとは限らないので警察、児童相談所等との連携を密にし、適正な対処をお願いしたい。

前年度の委員からの意見及び報告

【意見】

教員の長時間労働について、部活の方でもっと外部コーチを活用できれば、教員の負担が減るのではないかと。できれば、外部コーチの謝金の金額や、回数の上限を増やしてあげてほしい。地域の運動関係の組織と連携を図るのも大事だと思う。

【報告】

令和元年度、151千円の予算の増額をすることができた。平成30年度は、派遣回数の上限が、1年間で25回だったところ、令和元年度は30回とすることができた。

新たな外部指導者の発掘ができるよう、関係各課及び地域の総合型スポーツクラブやスポーツ少年団等とも連携を更に図っていききたい。

部活動指導員の導入についても、先進地区の事例を参考にしながら、市教育委員会内部で検討をはじめていききたい。

【意見】

教員が児童生徒を指導するためには、自分の私生活の充実も必要と考える。もう少し仕事にゆとりを持てるようなシステム作りをお願いしたい。

【報告】

本市では、平成27年度から働き方改革に取り組んでおり、教職員の時間外勤務時間も減少傾向にある。昨年度は、教育委員会職員による学校訪問の簡略化、お盆期間中の学校閉庁、運動部活動の休養日の設定などにも取り組み、学校現場の負担軽減を図った。今後も、校長会とも連携しながら、更なる改善に取り組みたい。

【意見】

いじめ問題の未解消のケースについても引き続き解消に向けた努力をお願いしたい。

【報告】

いじめの解消に向け、各学校と学校教育課と教育センターが情報を共有し、教育長、教育総務部長からの指示、助言を仰ぎながら、指導方針等についてきめ細かく協議し、解消のための組織的な対応に努めていきたい。

必要に応じて、市のいじめ防止アドバイザーである弁護士にも相談しながら、丁寧な対応に努めていきたい。

【意見】

佐野市ではまだ、いじめに関する大きな事件事故はなさそうだが、今後も気を付けて対処してほしい。

【報告】

毎月の各学校で行っている児童生徒へのアンケート調査や定期的な教育相談等により、いじめの早期発見、早期対応に努めていきたい。

児童生徒のよさを認め、伸ばしていくための様々な創意工夫を生かしたいじめの未然防止のための取組についても、更に充実を図っていきたい。

(4) 教育センター

1 組織、事務分掌及び職員（平成30年4月1日現在）

区分	主な事務分掌	職員数 (人)
所長	所内全般	1
教育センター	調査研究、教育相談、情報教育、特別支援教育、教育情報の収集と提供、教職員の研修、アクティブ教室教育相談員等の配置、教育センターの企画運営、教育センター施設の維持・管理	4
計		5

2 点検・評価

教育センターは、佐野市総合計画に基づき、平成30年度に19の事務事業を執行した。その中の主な事務事業として、心の教室相談員活用事業と教育講演会開催事業について、次のとおり考察した。

(1) 心の教室相談員活用事業

基本目標	豊かな心を育み、学び合うまちづくり
政策	地域とともに学び育てるまちづくり
施策名	学校・家庭・地域連携による教育力の向上
基本事業名	いじめ問題に対する学校・家庭・地域の連携
事業概要及び実施状況	<p>○事業概要</p> <p>心の教室相談員を配置することにより、児童生徒が気軽に相談できる体制を整備し、ストレスや悩み等の解消を図る。</p> <p>○実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配置校：スクールカウンセラーが拠点校となっていない中学校1校（常盤中）、及び児童生徒指導上、配置が必要と認める学校3校（植野小、城北小、田沼小）、計4校に心の教室相談員を1人ずつ配置 ・勤務態様：1日5時間、週2日間、年69日の勤務 ・相談件数：平成30年度の4校4人の相談延べ件数は1,077件
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・原則、相談対象は児童生徒となっているが、状況によっては保護者や教職員の相談にも応じるなど、学校の実情に合わせて対応することができた。 ・主な相談内容は、学習の悩みをはじめ、対人関係や不登校、家庭に関することなどが多かった。今後も、学級担任等との連携を図りながら、児童生徒一人一人に寄り添う相談体制の充実に努めていきたい。

(2) 教育講演会開催事業

基本目標	豊かな心を育み、学び合うまちづくり
政策	豊かな心と確かな学力を育むまちづくり
施策名	特色ある教育と心の教育の推進
基本事業名	教職員の資質の向上
事業概要及び実施状況	<p>○事業概要</p> <p>教育の今日的な課題に対しての情報提供を行い、教職員の資質や指導力の向上を図るため、佐野市教育会との共催で、市内の幼稚園・小中学校・高等学校の各教職員を対象に教育講演会を開催する。</p> <p>○実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：平成30年8月1日(水) 14:00～ ・会場：佐野市文化会館 大ホール ・演題：「教育に科学的根拠を」～いい先生とはどんな先生なのか?～ ・講師：慶應義塾大学 総合政策学部 准教授 中室 牧子 氏 ・参加者数：587人
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・教育講演会後のアンケートにおいて、「講演会が日頃の実践に役立つ内容であった」と感じた参加者の割合は94.9%であった。今後も、教職員のニーズと時代に合った講演内容を検討していきたい。 ・市立小中学校教職員の約8割が参加したが、幼稚園、高等学校については参加者が少ないのが現状である。今後も、幼稚園や高等学校の教職員が興味・関心を引くような講演内容を検討するとともに、佐野市教育会からの参加呼びかけの仕方を工夫する必要がある。

委員からの意見

- ・心の教室相談員活用事業について、児童生徒が気軽に相談できるよう配慮をお願いしたい。児童生徒だけでなく、保護者や教職員の相談にも応じる等、柔軟に対応している。今後も継続してほしい。
- ・教育講演会開催事業について、今後も多くの教職員に参加してもらえるよう努力してほしい。幼稚園、高等学校の教職員の参加を促すために、講演内容を幼稚園から小学校、中学校から高校等、進学を関連付ける等工夫をしてほしい。

前年度の委員からの意見及び報告

【意見】

教職員の指導力向上事業について、指導力向上というのは大変大事なことであり、教員の能力、指導力が上がるということは子供達のレベルが上がるということ。また将来的には市民のレベルが上がることに繋がっていくので参加者を増やして行ってほしい。

【報告】

年度初めの校長会議や教頭会議で研修への参加を呼びかけるとともに、校務支援システムにて全教職員にパワーアップ研修講座の内容を周知した。また、研修参加者が主体的に学べるよう、可能な限り演習を含めるなどして、研修方法の見直しに努めた。その結果、平成30年度のパワーアップ研修講座の参加者数は、前年度から91人増の439人となった。今後は、夏期研修（特別支援教育、教育相談、情報教育、学級経営）についても研修内容や研修方法を検討し、教職員にとって魅力ある研修となるようにしたい。

【意見】

不登校の児童生徒が少し増えたようだが、いじめに繋がる部分もあるので、きめ細かな目配り・指導をお願いしたい。

【報告】

佐野市及び各学校が定めたいじめ防止基本方針に基づいた指導体制の強化を図るとともに、スクールソーシャルワーカーが中心となって、スクールカウンセラーやスクーリングサポーター、心の教室相談員、センター相談員等との情報の共有を行い、不登校やいじめの未然防止や早期対応に努めていきたい。

(5) 学校給食課・学校給食センター

1 組織、事務分掌及び職員（平成30年4月1日現在）

学校給食課

区 分	主 な 事 務 分 掌	職員数(人)
課長	課内全般	1
学校給食係	学校給食の計画、調査、研究及び指導、学校給食施設の設置並びに管理及び運営、学校給食職員の研修、課の庶務	2 (北部学校給食センター兼務)
計		3

南部学校給食センター

区 分	主 な 事 務 分 掌	職員数(人)
所長	所内全般	1
南部学校給食センター	給食の献立作成、調理、運搬及び栄養指導、食品材料の発注及び検収、施設の維持管理、給食費に関すること 受配校 11校 佐野小学校 天明小学校 植野小学校 界小学校 犬伏小学校 犬伏東小学校 吾妻小学校 城東中学校 西中学校 南中学校 北中学校	3
計		4

北部学校給食センター

区 分	主 な 事 務 分 掌	職員数(人)
所長	所内全般	(学校給食課長兼務)
北部学校給食センター	給食の献立作成、調理、運搬及び栄養指導、食品材料の発注及び検収、施設の維持管理、給食費に関すること 受配校 24校 城北小学校 旗川小学校 赤見小学校 石塚小学校 出流原小学校 田沼小学校 吉水小学校 栃本小学校 多田小学校 戸奈良小学校 三好小学校 山形小学校 閑馬小学校 下彦間小学校 飛駒小学校 葛生小学校 葛生南小学校 常盤小学校 氷室小学校 赤見中学校 田沼東中学校 田沼西中学校 葛生中学校 常盤中学校	22
計		22

2 点検・評価

学校給食課・学校給食センターは、佐野市総合計画に基づき、平成30年度に10の事務事業を執行した。

その中の主な事務事業として、学校給食アレルギー対策事業、南部・北部学校給食センター管理運営事業、南部学校給食センター調理・配送業務委託事業について、次のとおり考察した。

なお、さきの原発事故による放射性物質に対する保護者の不安払拭のため、平成24年度より引き続き、南部学校給食センターに設置した測定器により調理前の食材を測定するように努め、放射性セシウム等の不検出を確認した。

(1) 学校給食アレルギー対策事業

基本目標	豊かな心を育み、学び合うまちづくり
政策	豊かな心と確かな学力を育むまちづくり
施策名	安全で安心して学べる教育環境の整備
基本事業名	安全で快適な学校施設の整備
事業概要及び実施状況	<p>○事業概要</p> <p>食物アレルギーを持つ児童生徒にアレルギー対応食（代替食）を提供するための実施手順として策定した「食物アレルギー対応の手引き」について、医療関係者等の専門家を交えた「学校給食食物アレルギー対策委員会」での検証を行い、アレルギー対応食の提供の検証・改善と充実を図る。</p> <p>○実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食食物アレルギー対策委員会、検討部会の開催 ・「食物アレルギー対応の手引き」の検証 ・アレルギー対応食提供に向け、新1年生及び在校生に対して食物アレルギー調査を実施
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・「食物アレルギー対応の手引き」において、以下の3箇所の改訂を行った。 <ol style="list-style-type: none"> ①給食センターの職員の役割に運転手の項目を加えた。 ②対応食を解除する際の手順の変更 ③対応食提供についての毎月の流れに関係書類として食物アレルギー詳細献立表を追加 ・平成30年度は代替食の対応児童生徒数が60名であり、今後も安全に配慮した適正な提供をめざしたい。

(2) 南部・北部学校給食センター管理運営事業

基本目標	豊かな心を育み、学び合うまちづくり
政策	豊かな心と確かな学力を育むまちづくり
施策名	安全で安心して学べる教育環境の整備
基本事業名	安全で快適な学校施設の整備
事業概要及	○事業概要

<p>び実施状況</p>	<p>学校給食センターの運営と施設の維持管理を行う。</p> <p>南部学校給食センターにおける平成30年度末の正職員数は、事務職2名、栄養士1名、ボイラー技士1名の4名となっており、また、県費栄養士2名、配膳員14名で運営している。平成29年8月より調理・配送業務は、株式会社 東洋食品に業務委託した。</p> <p>北部学校給食センターにおける平成30年度末の正職員数は、事務職3名（兼務）、調理師19名、ボイラー技士1名、運転手2名の25名となっており、また、県費栄養士3名、臨時嘱託員として調理員11名、運転手5名、配膳員26名で運営している。</p> <p>○実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気工作物、昇降機、消防設備、汚水処理装置等の保守 ・学校給食費(月額 11カ月徴収) <p>小学校 4,300円 中学校 5,000円</p> <p>【南部学校給食センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校7校 中学校4校に給食を提供 1日約5,000食 ・配送車5台による給食の配送(うち予備車1台) <p>【北部学校給食センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校19校 中学校5校に給食を提供 1日約4,600食 ・配送車8台による給食の配送(うち予備車1台)
<p>考 察</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理、地産地消への取り組み、給食食材の放射能測定、アレルギー対応食など実施できた。 ・米飯は全量について佐野産米を使用している。その他の食材についても可能な限り地産地消に取り組みたい。 ・平成25年度から南部センター、平成26年度から北部センターでアレルギー対応を実施している。専用の特別調理室で、専任の調理員による対応食の提供を行った。今後ともアレルギー事故等がないように万全を期して運用にあたりたい。

(3) 南部学校給食センター調理・配送業務委託事業

<p>基本目標</p>	<p>豊かな心を育み、学び合うまちづくり</p>
<p>政 策</p>	<p>豊かな心と確かな学力を育むまちづくり</p>
<p>施策名</p>	<p>安全で安心して学べる教育環境の整備</p>
<p>基本事業名</p>	<p>安全で快適な学校施設の整備</p>
<p>事業概要及び実施状況</p>	<p>○事業概要</p> <p>南部学校給食センターの調理・配送業務について、民間活力を活用し、業務委託により実施する。</p> <p>○実施状況</p> <p>平成29年に引き続き、調理配送業務を民間事業者へ委託して実施した。</p>

	<p>受託事業者の5月1日現在の従業員数は38名で、うち有資格者は19名。有資格者の内訳は、調理師16名。栄養士3名。</p> <p>南部学校給食センター配属栄養士の作成した献立及び調理食数に基づき、学校給食を200回提供した。</p>
考 察	<ul style="list-style-type: none"> ・ 直営での運営時と同様、とちぎハサップの衛生管理マニュアル等に沿った衛生管理を実行できた。 ・ 調理、配缶、配送は、時間内に適切に実施できた。 ・ 業務委託を適正に実施するため、委託業者の業務責任者等と随時協議を行い、重要事項については、書面でのやり取りを行った。 ・ 今後も、安全・安心な学校給食の提供をめざしていく。

委員からの意見

- ・ 新しい給食センターができて7年くらいたつと思うが、衛生面管理という点で非常に進んだと思っている。今後も栄養のバランスが取れた安全・安心な給食の提供をお願いしたい。
- ・ 給食センターの業務について、市の直営か業務委託するかのどちらかになると思うが、できるだけ効果が上がる方法で運営していただきたい。

前年度の委員からの意見及び報告

【意見】

アレルギー対応食について、作る場所や配送の時に保管場所を変える等、徹底した管理がされている。大変な気苦労かと思うが今後も十分な注意を払い、事故が起こらないようにしてほしい。

【報告】

アレルギーの対応については、より一層安全に配慮し、対応していく。

【意見】

限られた予算の中で栄養や地産地消等も考慮しながら給食を作るのは大変だと思うが、頑張ってもらいたい。

【報告】

今後も、栄養のバランスのとれた食事を提供するだけでなく、食育にも考慮しながら事務を行っていく。

(6) 生涯学習課・少年指導センター

1 組織、事務分掌及び職員（平成30年4月1日現在）

生涯学習課

区 分	主 な 事 務 分 掌	職員数 (人)
課長	課内全般	1
生涯学習係	生涯学習の企画及び総合調整、生涯学習推進協議会、生涯学習情報の収集・提供、調査研究、課の庶務	3
社会教育係	社会教育の企画及び総合調整、社会教育委員、家庭教育・成人教育・女性教育・青少年教育・社会教育の推進、社会教育施設、社会教育関係団体の指導助言、図書館に関すること	6
人権教育係 (集会所)	社会教育における人権教育、同和対策集会所運営委員会、同和対策集会所事業の企画・運営、同和対策集会所の管理	2 8
計		20

少年指導センター

区 分	主 な 事 務 分 掌	職員数 (人)
所長	所内全般	(生涯学習課長兼務)
少年指導センター	少年指導センターの運営、青少年に関する相談・指導、立入調査・環境浄化活動	1
計		1

2 点検・評価

生涯学習課・少年指導センターは、佐野市総合計画に基づき、平成30年度に59の事務事業を執行した。

その中の主な事務事業として、佐野市生涯学習フォーラム開催事業、放課後子ども教室推進事業、人権学習講演会開催事業、街頭補導実施事業、について、次のとおり考察した。

(1) 佐野市生涯学習フォーラム開催事業

基本目標	豊かな心を育み、学び合うまちづくり
政 策	地域とともに学び育てるまちづくり
施策名	生活を豊かにする生涯学習の推進
基本事業名	学習成果を活かす取組

<p>事業概要及び実施状況</p>	<p>現在、各地では学びを活かした活発なまちづくり活動が展開されている。本フォーラムは、そのような元気な団体の実践事例の情報交換、研究発表等を行うことにより、生涯学習・まちづくり・地域の人材育成などの発展に寄与することで、地域と地域の連携を強くし、多様な地域社会の形成を目指すことを目的としている。</p> <p>また、市民一人一人が生涯を通して学ぶことのできる環境の整備、多様な学習機会の提供、学習した成果が適切に評価されるための仕組みづくりなど、本市における生涯学習社会の実現のための取組をより一層進め、本市の生涯学習の推進に貢献するとともに、市民協働のまちづくりを活性化することも目的として開催した。</p> <p>【開催期日】平成31年3月2日～3日（2日間） 【会 場】佐野市文化会館、佐野市勤労者会館 【主な行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 開会式典（3/2 午前10時～10時30分 文化会館小ホール） ② 基調講演（3/2 午前10時30分～12時 文化会館小ホール） ③ 分科会（3/2 午後0時45分～・午後2時55分～、の2部制 合計6分科会開催 勤労者会館・文化会館小ホール） ④ 交流会（3/2 午後5時15分～ マリアージュ仙水） ⑤ 楽習フェア（両日午前10時～午後3時 文化会館大ホール、会議室 他） ⑥ 静のアート作品展（両日午前10時～午後3時 文化会館展示室） <p>【延べ参加者数】 1,800人</p>
<p>考 察</p>	<p>平成30年度は、文星芸術大学名誉教授である林香君先生による基調講演、林先生と市長との対談を行った。静のアート作品展には林先生が指導し、児童館の子どもたちが作成した壁画アートの展示を行ったことで、子ども達とその家族の観覧者が増加した。</p> <p>さらに、佐野市で活躍する団体を中心に実践事例発表をしたことで、市民間の情報交換と参加者相互の交流を図り、今後の地域における活動を活発にすることで、本市の生涯学習推進に貢献できた。</p> <p>今後も、子どもから高齢者等多くの市民が集えるフォーラムの開催を企画する必要がある。</p>

(2) 放課後子ども教室推進事業

基本目標	豊かな心を育み、学び合うまちづくり				
政策	地域とともに学び育てるまちづくり				
施策名	学校・家庭・地域連携による教育力の向上				
基本事業名	地域の教育力を活かす取組				
事業概要及び 実施状況	○事業概要				
	地域住民の参画を得て、小学校区ごとに放課後子ども教室実行委員会を設置し、放課後子ども教室の運営を委託した。				
	放課後子ども教室の実施により、子どもの安全で安心な居場所を確保し、子どもたちに様々な体験・交流活動の機会を定期的、継続的に提供した。また、地域住民が関わることで、地域社会全体の教育力の向上を図り、地域の活性化や子どもが安心して暮らせる環境づくりを推進した。				
	さらに、放課後子どもプラン運営委員会を開催し、佐野市の放課後子どもプランについて協議し、こどもクラブとの一体的または連携した運営の推進を図った。				
	○放課後子ども教室実施状況				
	放課後子ども教室名	学校名	開講態	実施場所	内容
	いきいき何でも体験クラブ	犬伏東小	日常型	体育館、校庭 他	学び塾、自由遊び、バスケット 他
	旗川小学校区放課後子ども教室	旗川小	待機型	図書館、空き教室、体育館 他	読書、折り紙、創作活動 他
	吾妻小学校区放課後子ども教室	吾妻小	待機型	空き教室	自由遊び 自由学習、クリケット 他
	石塚小学校区放課後子ども教室	石塚小	待機型	校庭、体育館、空き教室 他	クリケット、季節の行事、外遊び 他
	出流原小学校区放課後子ども教室	出流原小	日常型 待機型	校庭、体育館 空き教室 他	楽しく走ろう教室、バドミントン 他
	多田っ子広場子ども教室	多田小	待機型 イベント型	図書館 校庭 他	紙芝居、自由遊び、ハイキング、昔の遊び 他
	葛生小学校区放課後子ども教室	葛生小	待機型	空き教室 他	クリケット、農業体験、化石磨き 他
葛生南小学校区放課後子ども教室	葛生南小	待機型	空き教室	読み聞かせ、ゲーム、英語の歌、工作 他	
合唱団どんぐり子ども教室	葛生地区	日常型	葛生地区公民館	合唱、ゲーム 他	
とならっ子放課後子ども教室	戸奈良小	待機型	空き教室	読み聞かせ、クリケット、宿題 他	
○県費補助事業 国、県各 1/3、市 1/3					
考察	<p>・新・放課後子ども総合プランにより、放課後子ども教室とこどもクラブを、一体的または連携して実施することが望ましいとされており、計画的に実施していく必要がある。今後、こどもクラブとの連携を図るために放課後子どもプラン運営委員会での協議や、こども課と生涯学習課、こどもクラブと放課後子ども教室のスタッフ間の連携を密にすることが望まれる。</p> <p>・令和2年度には田沼西地区に、その後も他地区に小中一貫校の開校が予定され</p>				

	<p>ているが、現在放課後子ども教室のある校区も含まれる。そのため、放課後子ども教室の設置に関する調査、周知等を行い、小中一貫校の開設に伴う放課後子ども教室の開設の検討を進める。</p> <p>・地域の実情に応じた新たな放課後子ども教室の形態を模索しながら、地域に根差した「安全で安心な子どもの居場所」を目指した教室となるよう検討していきたい。</p>
--	--

(3) 人権学習講演会開催事業

基本目標	市民参加による自立したまちづくり																																								
政 策	人権を尊重した市民参加によるまちづくり																																								
施策名	個々の人権を尊重する地域社会の形成と男女共同参画社会の実現																																								
基本事業名	人権意識の高揚と人権問題の解決																																								
事業概要及び実施状況	<p>○事業概要</p> <p>各集会所の周辺住民の方や各講座受講者等を対象に、様々な人権問題に関する多様な学習機会を生涯にわたって提供し、人権意識・人権感覚の高揚に努め、教育・啓発活動の充実を図ることを目的として開催した。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">期日</th> <th style="width: 20%;">集会所名</th> <th style="width: 50%;">講 師</th> <th style="width: 20%;">主 題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6/28</td> <td>富士見町</td> <td>NPO 法人 人権センターとちぎ 理事長 和田 献一 氏</td> <td>子ども</td> </tr> <tr> <td>7/12</td> <td>免鳥町</td> <td>行政書士 深 見 史 氏</td> <td>女性</td> </tr> <tr> <td>7/20</td> <td>大橋町西部</td> <td>一般社団法人 栃木県手をつなぐ育成会 会長 小島 幸子 氏</td> <td>障がい者</td> </tr> <tr> <td>7/24</td> <td>大橋町東部</td> <td>NPO 法人 人権センターとちぎ 理事長 和田 献一 氏</td> <td>国際社会における日本の人権</td> </tr> <tr> <td>9/27</td> <td>小見町南小見</td> <td>社会保険労務士 堀本 和男 氏</td> <td>外国人</td> </tr> <tr> <td>10/3</td> <td>赤見町山崎</td> <td>グループ・わっくる</td> <td>女性</td> </tr> <tr> <td>10/17</td> <td>並木町田中</td> <td>グループ・わっくる</td> <td>女性</td> </tr> <tr> <td>12/12</td> <td>多田町</td> <td>社会保険労務士 堀本 和男 氏</td> <td>外国人</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">参加者数合計</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">274人</td> </tr> </tbody> </table>	期日	集会所名	講 師	主 題	6/28	富士見町	NPO 法人 人権センターとちぎ 理事長 和田 献一 氏	子ども	7/12	免鳥町	行政書士 深 見 史 氏	女性	7/20	大橋町西部	一般社団法人 栃木県手をつなぐ育成会 会長 小島 幸子 氏	障がい者	7/24	大橋町東部	NPO 法人 人権センターとちぎ 理事長 和田 献一 氏	国際社会における日本の人権	9/27	小見町南小見	社会保険労務士 堀本 和男 氏	外国人	10/3	赤見町山崎	グループ・わっくる	女性	10/17	並木町田中	グループ・わっくる	女性	12/12	多田町	社会保険労務士 堀本 和男 氏	外国人	参加者数合計		274人	
期日	集会所名	講 師	主 題																																						
6/28	富士見町	NPO 法人 人権センターとちぎ 理事長 和田 献一 氏	子ども																																						
7/12	免鳥町	行政書士 深 見 史 氏	女性																																						
7/20	大橋町西部	一般社団法人 栃木県手をつなぐ育成会 会長 小島 幸子 氏	障がい者																																						
7/24	大橋町東部	NPO 法人 人権センターとちぎ 理事長 和田 献一 氏	国際社会における日本の人権																																						
9/27	小見町南小見	社会保険労務士 堀本 和男 氏	外国人																																						
10/3	赤見町山崎	グループ・わっくる	女性																																						
10/17	並木町田中	グループ・わっくる	女性																																						
12/12	多田町	社会保険労務士 堀本 和男 氏	外国人																																						
参加者数合計		274人																																							

考 察	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同和対策集会所条例に規定する集会所設置目的の1つである「基本的人権を尊重し、同和問題をはじめとする様々な人権問題を解決するため、地域住民の人権意識の高揚を図る」ことを推進するため、各集会所で年1回講演会を開催している。平成30年度は合計274人の参加者があり、地域住民の人権意識の高揚を図ることに繋がっている。今後も様々な人権問題について学習する機会を提供し、参加者の増に努めたい。
-----	---

(4) 街頭補導実施事業

基本目標	地域の特色を活かした快適なまちづくり																												
政 策	安心して安全に暮らせるまちづくり																												
施策名	交通安全・防犯対策の推進																												
基本事業名	防犯意識の高揚と防犯体制の充実																												
事業概要及び実施状況	<p>○事業概要</p> <p>教育委員会より委嘱した少年補導員75人が21班を編成して午後、夕方、夜間の時間帯で市内の娯楽施設、盛り場、駅及び公園のほか非行が行われやすい場所を巡回する。</p> <p>○実施状況</p> <p>従事回数323回・延べ参加人数536人、現場注意指導232人、声かけ580人の実績があった。</p> <p>【現場注意指導等人数の内訳】</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>指導</th> <th>声かけ</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>未就学児</td> <td>1人</td> <td>33人</td> <td>34人</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>31人</td> <td>102人</td> <td>133人</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>55人</td> <td>141人</td> <td>196人</td> </tr> <tr> <td>高校生</td> <td>133人</td> <td>286人</td> <td>419人</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>12人</td> <td>18人</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>232人</td> <td>580人</td> <td>812人</td> </tr> </tbody> </table>	区分	指導	声かけ	合計	未就学児	1人	33人	34人	小学生	31人	102人	133人	中学生	55人	141人	196人	高校生	133人	286人	419人	その他	12人	18人	30人	合計	232人	580人	812人
区分	指導	声かけ	合計																										
未就学児	1人	33人	34人																										
小学生	31人	102人	133人																										
中学生	55人	141人	196人																										
高校生	133人	286人	419人																										
その他	12人	18人	30人																										
合計	232人	580人	812人																										
考 察	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巡回補導で声掛けすることにより青少年の非行の早期発見、未然防止を図っている。今後も補導回数や補導内容を検討しながら、青少年の健全育成に努めていきたい。 																												

委員からの意見

- ・ 街頭補導事業について、実績報告の集計の方法を統一してほしい。

前年度の委員からの意見及び報告

【意見】

図書館等指定管理事業について、近年、各自治体で図書館のサービスが多様化しているようなので、今後も利用者の利便性が向上するよう努めてほしい。

【報告】

図書館では、移動図書館車の運行や、ブックリサイクルの開催など、様々なサービスを行っています。平成30年度は、利用者の要望であった公衆無線LANの設置工事を行いました。今後も利用者のニーズを受け止め、利便性向上に努めてまいります。

【意見】

生涯学習の「学」の字だが「生涯学習フォーラム」の時だけ「学ぶ」ではなく「楽しい」という漢字を使っている。以前から違和感があったので「学ぶ」に変えることを検討してもいいのではないか

【報告】

「生涯学習」とは、「自ら進んで楽しく学ぶ」「本当の楽しさ」という考えに基づき、佐野市では楽しく習うと書いて楽習とよばれています。

平成19年には「楽習と参画のまち佐野」都市宣言を行っていることから、今後も継続したいと考えております。

(7) 文化財課

1 組織、事務分掌及び職員（平成30年4月1日現在）

文化財課

区 分	主 な 事 務 分 掌	職員数 (人)
課長	課内全般	1
文化財保護係	文化財保護に関すること、文化財保護審議会に関するこ と、史跡の保存整備に関すること、埋蔵文化財に関するこ と	6
計		7

2 点検・評価

文化財課では、平成30年度に唐沢山城跡保存整備事業、文化財保護審議会運営事業、文化財保護調査事業、指定文化財保存修復支援事業、田中正造旧宅一般公開支援事業、佐野市文化財要覧等作成事業、唐沢山城跡災害復旧事業の7つの事務事業を執行した。なお、唐沢山城跡災害復旧事業については、平成30年10月の台風24号による被害発生での対策となる。

そのなかの主な事務事業として、唐沢山城跡保存整備事業、佐野市文化財要覧等作成事業について、次のとおり考察した。

(1) 唐沢山城跡保存整備事業

基本目標	新たな流れの創造による賑わうまちづくり
政 策	歴史・文化を守り育てるまちづくり
施策名	歴史・文化資源の継承と保存
基本事業名	歴史・文化資源の調査と適切な保存・継承
事業概要及 び実施状況	<p>○事業概要</p> <p>平成26年3月に国指定史跡となった唐沢山城跡を後世に良好な状態で伝えるため、平成26年度から長期的な保存管理や整備活用を目指した取組みとして唐沢山城跡保存整備事業に着手した。平成27年度には唐沢山城跡保存活用計画、平成28年度には唐沢山城跡整備基本計画を策定し、平成29年度には唐沢山城跡整備基本設計を行った。こうした各種計画や設計等を基にして史跡の保存や活用に関する取組みを推進している。</p> <p>○実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 史跡内での現状変更がないよう調整を図り、やむをえない場合は現状変更等の手続きを指導した。 ・ 保存整備調査指導委員会を2回開催し、歴史や石垣等の各分野の専門家から指導を得た。この他、文化庁、栃木県教育委員会の指導を適時仰いだ。 ・ 本丸北側及び二の丸南側で落石防止対策工事を実施した。 ・ 南城、二の丸周辺における石垣の保存に影響を及ぼす樹木を伐採した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・本丸西側における石垣保存整備に向けた実施設計を行った。 ・史跡でのボランティアガイド養成のため、ボランティア養成講座を開講した。 ・史跡唐沢山城跡保存会の活動支援を行った。 ・(一財)佐野市伝統文化地域振興財団と共催し、山城の楽しみ方やガイダンス施設の有益性に関する講演会を開催した。
考 察	<ul style="list-style-type: none"> ・本丸周辺石垣における当面の安全対策工事に着手することになり、本保存整備事業が進展した。今後も着実な事業推進が求められる。 ・ボランティア団体の育成に関連し、史跡唐沢山城跡保存会の活動充実を図るとともに、団体が自立して活動できるよう支援していきたい。 ・本保存整備事業の推進に向け、広く市民の理解を得られるよう普及啓発活動を継続する必要がある。

(2) 佐野市文化財要覧等作成事業

基本目標	新たな流れの創造による賑わうまちづくり
政 策	歴史・文化を守り育てるまちづくり
施策名	歴史・文化資源の継承と保存
基本事業名	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進
事業概要及び実施状況	<p>○事業概要</p> <p>現在の文化財要覧は旧佐野市（H3年発行）、旧田沼町（H17年発行）、旧葛生町（H5年）でそれぞれ発行したもので、発行後長い年月が経過している。1市2町の合併後いまだに、本市の指定文化財等を総覧できる冊子がない状況である。旧要覧発行後、新たに指定されたものや指定が解除された文化財なども一定数あるため、最新の状況を反映させた、本市の貴重な指定文化財を総覧する「文化財要覧」を編集・発行する。</p> <p>○実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財保護審議会委員の協力のもと、257件の指定や登録文化財に関する原稿の校正を重ね、最終的な原稿案を取りまとめた。 ・旧市・町で不統一であった指定区分や指定名称の統一的な見直しを行った。 ・掲載に用いる写真の選び出しを行った。 ・写真などを含め、全体の構成や各ページの割付案を作成した。
考 察	<ul style="list-style-type: none"> ・「文化財要覧」の編集・発行に向け着実に準備を進めることが出来た。 ・「文化財要覧」の発行によって、本市の歴史や伝統文化等の象徴ともなる指定文化財等に対する理解や、地域の歴史や伝統文化に対する愛着を深めてもらう機会としていきたい。

委員からの意見

- ・唐沢山城跡保存整備事業について、石垣の保存や石垣に影響する樹木の伐採等進んでいるが、南城館へ上がる階段も破損しているのでそちらの修繕もお願いしたい。

前年度の委員からの意見及び報告

【意見】

山城サミットお疲れ様でした。成功裡に終わって良かったと思う。

【報告】

大勢の来場があり、大会を通じて唐沢山城跡の重要性や保存整備の必要性に対する理解促進の機会とすることができた。

【意見】

唐沢山神社の台風の影響による倒木について、危険箇所にテープが貼ってあるだけなので参拝者等に危険が無いよう早めの対応をお願いしたい。

【報告】

唐沢山神社で応急処置を実施した。市では国庫補助金での災害復旧事業で対策を講じている。

【意見】

文化財の図録について、作成が進んでいるようだが是非、立派な統一本を作ってほしい。

【報告】

関係者の協力や指導の下、編集作業が着実に進んでいる。より充実したものとなるよう努力したい。

【意見】

唐沢山城の全体的な模型を作成し庁舎内等に展示すれば、PRになるのではないか。

【報告】

唐沢山城の全体的な模型については史跡の把握に有効と考えられるので、製作方法や設置場所等、より有効な活用方法を検討していきたい。

(8) 郷土博物館・葛生化石館・葛生伝承館

1 組織、事務分掌及び職員（平成30年4月1日現在）

郷土博物館

区 分	主 な 事 務 分 掌	職員数(人)
館長	館内全般	1
郷土博物館	施設設備の維持管理、郷土博物館協議会、考古・歴史・民俗等の資料収集・保管・調査研究、企画展等開催、講座・講演会の開催、博学連携事業等	3
計		4

葛生化石館

区 分	主 な 事 務 分 掌	職員数(人)
館長	館内全般	(吉澤記念美術館長及び葛生伝承館長兼務)
葛生化石館	施設設備の維持管理、化石等収集・保存・管理・展示・調査研究、講座・講演会の開催、企画展等開催・学校連携事業、他博物館連携等	2 (うち1名 葛生伝承館兼務)
計		2

葛生伝承館

区 分	主 な 事 務 分 掌	職員数(人)
館長	館内全般	(吉澤記念美術館長及び葛生化石館長兼務)
葛生伝承館	施設設備の維持管理、郷土芸能資料収集・展示・調査研究、講座・講演会の開催、企画展開催	1
計		1

2 点検・評価

郷土博物館・葛生化石館・葛生伝承館は、佐野市総合計画に基づき、平成30年度に19の事務事業を執行した。

その中の主な事務事業として、郷土博物館企画展等開設事業、郷土博物館学校利用推進事業、葛生化石館講座等開設事業、葛生伝承館企画展等開設事業について、次のとおり考察した。

(1) 郷土博物館企画展等開設事業

基本目標	新たな流れの創造による賑わうまちづくり
政 策	歴史・文化を守り育てるまちづくり
施策名	歴史・文化資源の継承と保存

基本事業名	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進		
事業概要及び実施状況	○企画展等の内容		
	展 示 会 名	期 間	入館者数
	とちぎ和算の世界～佐野にある日本最古の算額～	4/28～6/17	3,050人
	栃木県立博物館地域移動博物館 「キノコの世界へようこそ」	7/21～8/30	3,172人
	天明鋳物師 ～伝説から飛躍へ～	10/6～11/25	3,820人
	収蔵資料展 くらしのうつりかわり ～古い道具と昔のくらし～	1/4～2/26	4,609人
	合 計		14,651人
	・春と秋には企画展、夏には県立博物館地域移動博物館、冬には収蔵資料展を開催し、開催日数は169日、入館者数14,651人、1日平均86.7人であった。		
考 察	・春の企画展「とちぎ和算の世界～佐野にある日本最古の算額～」では、佐野市に日本最古の算額があることを紹介するとともに、企画展関連行事として全国和算研究大会佐野大会を群馬県和算研究会等と開催し、全国から多くの研究者も集まった。秋の企画展「天明鋳物師～伝説から飛躍へ～」は、最新の研究成果をもとに天明鋳物の歴史を紹介した。栃木県立博物館地域移動博物館「キノコの世界へようこそ」は、県立博物館が所蔵資料のうちキノコを中心とした自然系の展示を行った。「収蔵資料展 くらしのうつりかわり～古い道具と昔のくらし～」では、昔の道具とくらしについてそれぞれ展示した。平成29年度に比べ入館者数は280人(1.9%)減少したが、今後も魅力のある企画展を開催し、入館者の増加に努めたい。		

(2) 郷土博物館学校利用推進事業

基本目標	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		
政 策	歴史・文化を守り育てるまちづくり		
施策名	歴史・文化資源の継承と保存		
基本事業名	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進		
事業概要及び実施状況	○市内小学校の利用		
	学習内容と対象	期 間	人数(クラス)
	歴史学習(原始・古代の佐野) 市内26小学校の6年生	5月～6月	951人(37)
	きょう土につくした人々(田中正造等)市内26小学校の4年生	10月～11月	896人(41)

	暮らしのうつりかわり (古い道具と昔の暮らし) 市内 26 小学校の 3 年生	1 月～ 2 月	993 人 (43)
	合 計		2,840 人 (121)
○その他の学校利用			
	学習内容と対象 田中正造、暮らしのうつりかわり等 佐野高等学校付属中学校、足利市毛野 南小学校等 12 団体	期 間 4 月～ 3 月	人 数 641 人
	・市内小学 6・4・3 年生が、学習のために博物館に来館し、2,840 人、 121 クラスの利用者があった。また、それ以外の学校利用もあり、641 1 人の利用者があった。		
考 察	・郷土博物館学校利用推進事業は、市内の小学 6・4・3 年生が博物館を利用 して、歴史資料に触れる機会を提供するものである。近年は、足利市内 の小学校など市外学校の利用も増加している。 今後も各学校からの要望を取り入れると共に、展示解説ボランティアの協 力を得ながら事業を推進していきたいと考える。		

(3) 葛生化石館講座等開設事業

基本目標	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			
政 策	歴史・文化を守り育てるまちづくり			
施策名	歴史・文化資源の継承と保存			
基本事業名	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進			
事業概要及 び実施状況	○講座の内容			
	講 座 名	期 日	回 数	参加人数
	化石採集教室 (1 回目は雨天により化石散歩に変更、実施時期 の調整のため 4 回実施した。)	4/15, 7/28 11/23, 3/23	4	78 人
	地質の日記念事業 「化石と遊ぼう」	5/13	1	302 人
	葛生南こどもクラブ 「化石探し」体験	7/31	1	20 人
	第 2 赤見こどもクラブ 「化石探し」体験	8/7	1	22 人
	企画展関連講座「小さなほ乳類化石 の秘密」(講演会+体験会)	8/18	1	41 人

児童館はらっぱ 「化石探し・石灰石磨き」体験	8/29	1	32人
風の子保育園 「化石探し」体験	8/29	1	30人
県立佐野高等学校附属中学校3年生	9/13, 14	2	105人
葛生南小学校放課後子ども教室 「石灰石磨き」体験	9/19	1	9人
戸奈良小学校放課後子ども教室 「石灰石磨き・化石探し」体験	10/18, 1/31	2	14人
ジオウォーキング	10/27	1	15人
企画展関連講座「つくってみようビーズ de 放散虫」	11/17	1	14人
犬伏うるおいセミナー	12/13	1	35人
多田小学校放課後子ども教室 「石灰石磨き」体験	2/5	1	9人
旗川小学校放課後子ども教室 「石灰石磨き」体験	2/20	1	29人
計		20	755人

他事業協力

講座名	期日	回数	参加人数
さの SPRING フェスタ 2018	4/22	1	145人
ナイトミュージアムズ!	7/29	1	137人
原人まつり 化石発掘隊	8/26	1	38人
3館クイズラリー	10/14	1	228人
合計		4	548人

・専門家を講師とする企画展関連講演会と、学芸員や化石館ボランティアを講師とした主催講座と出張講座に、合わせて755人が参加した。また他事業への協力で行った体験にも548人が参加し、計1,303人となった。

考 察

・化石館では、身近に自然科学にふれあえる体験型講座に力を入れており、化石採集教室やジオウォーキング、化石標本を作る体験、化石を含んだ石灰石を磨く体験、化石を探すミニ体験など多彩なプログラムを準備している。近年は各小中学校に積極的にPR活動を行い、徐々に認識されてきたことで、児童生徒の利用が増えてきている。今後も参加者が、自然科学に親しみ興味を深められるよう創意工夫して講座を開設していきたい。

	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度の開館日数は291日で、入館者は23,955人となり、前年度より1,634人(7.3%)の増であった。その要因は、ディステーションキャンペーンの影響やバス等のツアーの増加、特に新種の化石発見の報告があったためと考える。今後も、継続的に研究して成果を出して行きたい。
--	--

(4) 葛生伝承館企画展等開設事業

基本目標	新たな流れの創造による賑わうまちづくり																							
政策	歴史・文化を守り育てるまちづくり																							
施策名	歴史・文化資源の継承と保存																							
基本事業名	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進																							
事業概要及び実施状況	<p>○企画展の内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>展示会名</th> <th>期間</th> <th>入館者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>雛人形展</td> <td>4/1～4/8</td> <td>270人</td> </tr> <tr> <td>県指定無形民俗文化財 鏡塚宮 比講神楽と牧歌舞伎展</td> <td>4/22～6/24</td> <td>2,157人</td> </tr> <tr> <td>吉澤人形頭展</td> <td>7/15～9/17</td> <td>1,689人</td> </tr> <tr> <td>祝い掛軸展</td> <td>10/2～1/27</td> <td>2,577人</td> </tr> <tr> <td>雛人形展</td> <td>2/9～3/31</td> <td>1,356人</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td>8,049人</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 年間4回の企画展を開催し、開館日数256日、入館者数8,049人、1日平均31人であった。 			展示会名	期間	入館者数	雛人形展	4/1～4/8	270人	県指定無形民俗文化財 鏡塚宮 比講神楽と牧歌舞伎展	4/22～6/24	2,157人	吉澤人形頭展	7/15～9/17	1,689人	祝い掛軸展	10/2～1/27	2,577人	雛人形展	2/9～3/31	1,356人	合計		8,049人
展示会名	期間	入館者数																						
雛人形展	4/1～4/8	270人																						
県指定無形民俗文化財 鏡塚宮 比講神楽と牧歌舞伎展	4/22～6/24	2,157人																						
吉澤人形頭展	7/15～9/17	1,689人																						
祝い掛軸展	10/2～1/27	2,577人																						
雛人形展	2/9～3/31	1,356人																						
合計		8,049人																						
考察	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度入館者数は8,049人となり、前年度より1,331人(19.8%)の増であった。これは、近隣の美術館で伊藤若冲『菜蟲譜』の公開があり見学者が増えたため、相乗効果で伝承館にも回遊する見学者が増えたために入館者が多かった。 郷土芸能の保存・伝承に努め、特に県指定文化財「吉澤人形頭」93体については、平成16年より計画的に修繕を行い81体が終了している。それらは順次展示して公開している。 広報等で、雛人形等の出展協力を呼びかけることにより、市民参加型の展示をめざし、徐々に市民に認知されてきている。 今後も内容の充実を図りながら、地域の歴史・文化に対する理解促進に寄与し、佐野市内の特色を生かした企画展示に取り組み、来館者増へつながらよう努力したい。 																							

委員からの意見

- ・ 郷土博物館の歴史学習で、例えば、まいぎりでの火起こし等体験的なものは子どもたちにとっても良い経験になるので推進してほしい。できれば道具の貸し出しにも対応してほしい。

前年度の委員からの意見及び報告

【意見】

今年、郷土博物館で開催した企画展「とちぎ和算の世界」はとても良い企画だと思うので、もっとPRしてやってほしい。

(9) 吉澤記念美術館

1 組織、事務分掌及び職員（平成30年4月1日現在）

区 分	主 な 事 務 分 掌	職員数 (人)
館長	館内全般	1
吉澤記念美術館	施設及び設備の維持管理、入館者の受付及び広報、企画展の企画と実施、その他美術館に関すること	3
計		4

2 点検・評価

吉澤記念美術館は、佐野市総合計画に基づき、平成30年度に9の事務事業を執行した。

その中の主な事務事業として、美術館展覧会開催事業、小中学生絵画作品コンクール開催事業について、次のとおり考察した。

(1) 美術館展覧会開催事業

基本目標	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		
政 策	歴史・文化を守り育てるまちづくり		
施策名	文化芸術活動の推進		
基本事業名	文化芸術活動の推進		
事業概要及び実施状況	○展覧会の内容		
	展覧会名	期 間	観覧者数
	キラメク工芸・カガヤク日本画【後期】	4月1日～5月13日	1,052人
	ひそやかな別天地 －伊藤若冲《菜蟲譜》と江戸から 近代の「絵の本」－	5月26日～7月1日	2,997人
	おいしい美術	7月14日～10月8日	1,345人
	生誕100年 田村耕一展	10月20日～12月9日	1,242人
	吉祥繚乱【前期】	1月5日～2月24日	1,069人
	吉祥繚乱【後期】	3月9日～3月31日	422人
	計		8,127人

考 察	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度は、企画展6回(4月に前年度開催の企画を継続)、開館日数251日、観覧者数8,127人、一日平均32.3人であった。 ・6月2～24日の20日間、伊藤若沖《菜蟲譜》の特別公開を行った。その期間は、関東圏内外から多くの来館者があり、入館者2,756人、一日平均137.8人であった。 ・10月20日～12月9日にかけて、佐野市出身の人間国宝・田村耕一の生誕100年を記念し、「人間国宝田村耕一陶芸館」等と連携を行い、市内外の田村耕一の主要作品を展示した。 ・今後も多くの人に美術館へ来てもらえるよう、展示会等で市民の心を豊かにする取り組みを進めていきたい。
-----	---

(2) 小中学生絵画作品コンクール開催事業

基本目標	新たな流れの創造による賑わうまちづくり
政 策	歴史・文化を守り育てるまちづくり
施策名	文化芸術活動の推進
基本事業名	文化芸術活動の推進
事業概要及び実施状況	<p>○開催状況</p> <p>小中学生絵画作品コンクールは、絵を描くことを通して、美術に親しみを持ってもらい、郷土への愛着を図ることを目的に、管内の小中学生を対象に、佐野市に関するテーマの絵画作品を募集し、すぐれた作品を表彰するもので、美術館開館当初の平成15年度から実施している。また、全応募作品を展示した展覧会を美術館内の地域交流センターで開催した。</p> <p>平成30年度は、テーマを「わたしの好きな佐野市」とし、小学校26校452点、中学校10校111点。合計36校、563点の応募があった。作品は、平成31年1月5日～2月11日まで展示した。</p> <p>児童生徒の声として、毎年テーマがあるので、描きやすい。参加賞がもらえた。入賞できてよかった。家族で展示を見に行くきっかけとなった。頑張っって絵を描いた。などの意見や、絵に興味を持つ生徒にとっては、貴重な機会となっている。などの大人の意見ももらっている。</p> <p>15年間での応募点数は、小学校6,275点、中学校1,293点。合計7,568点となっている。</p>
考 察	<p>この事業は、全庁的な事務事業の見直しにより、この事業は令和元年度をもって廃止となる予定である。毎年500点からの小中学生からの応募があり、絵を描くことへの興味を持つきっかけにもなっている事業である。美術館としては、子どもたちの芸術・文化に親しむ機会が減少し、作品の展示が無くなることで保護者等の来館の機会も減ってしまうと予想されることから、新たな事業の検討が必要であると考えている。</p>

委員からの意見

- ・小中学生絵画作品コンクール開催事業について、令和元年度で事業は終了してしまう。応募作品も多い事業だったので残念だが、来年度以降、これに代わる事業をお願いしたい。

前年度の委員からの意見及び報告

【意見】

- ・美術館の入館者数が化石館、伝承館の入館者数に影響するようだ。魅力ある企画展やメディアを使った積極的なPRを展開してほしい。

【報告】

化石館・伝承館とスタンプラリーを実施するなど、連携を行いながら、入館者の増に努めている。

「美術館」という場所を市民に周知しながら、魅力ある展示会等を展開することで、より親しみやすく、市民の心を豊かにする展覧会や、各種講座の開催を進めてきた。市のホームページの充実や各所にポスターを掲示したり、取材の依頼を積極的に行うなど、PRを行っている。

(10) 公民館管理課

1 組織、事務分掌及び職員（平成30年4月1日現在）

区 分	主 な 事 務 分 掌	職員数 (人)
課長	課内全般	1
管理係	公民館の管理及び運営、公民館運営審議会、公民館施設等の整備、改修・修繕等、各地区公民館との連絡調整、町有公民館建設費等補助事業、課の庶務 市民大学開設事業及び市民教養講座開催事業等の公民館開催事業の計画及び実施、敬老会事業、コミュニティ推進活動及び支援、公民館利用状況の作成	4
田沼中央公民館	田沼中央・田沼各地区公民館の管理、運営及び連絡調整、公民館及びコミュニティ施設の改修・修繕等、敬老会事業	2
葛生地区公民館	葛生各地区公民館の管理、運営及び連絡調整、公民館及びコミュニティ施設の改修・修繕等、敬老会事業	1
計		8

2 点検・評価

公民館管理課は、佐野市総合計画に基づき、平成30年度に40の事務事業を実施した。

その中の主な事務事業として、公民館親と子の交流活動事業、植野地区公民館駐車場整備事業、旗川地区公民館駐車場整備事業について、次のとおり考察した。なお、各地区公民館の利用状況は次のとおりである。

公民館名	延利用件数(件)			延利用人数(人)		
	平成30年度	平成29年度	増減	平成30年度	平成29年度	増減
中央	2,432	2,409	23	35,378	37,841	△2,463
植野	2,051	2,094	△43	27,897	27,574	323
界	1,682	1,788	△106	18,635	22,664	△4,029
犬伏	1,694	1,774	△80	21,966	24,052	△2,086
城北	2,919	2,896	23	42,590	40,207	2,383
旗川	902	870	32	10,578	9,834	744
吾妻	585	549	36	8,120	10,163	△2,043
赤見	1,688	1,626	62	25,067	27,355	△2,288
[佐野地区小計]	13,953	14,006	△53	190,231	199,690	△9,459

公民館名	延利用件数(件)			延利用人数(人)		
	平成30年度	平成29年度	増減	平成30年度	平成29年度	増減
田沼中央	1,438	1,514	△76	33,806	34,733	△927
田沼地区	1,018	1,021	△3	14,243	13,766	477
田沼南部	93	173	△80	1,759	3,882	△2,123
[田沼地区小計]	2,549	2,708	△159	49,808	52,381	△2,573
葛生	675	679	△4	8,721	8,414	307
常盤	412	515	△103	3,794	6,993	△3,199
氷室	218	218	0	2,704	3,319	△615
[葛生地区小計]	1,305	1,412	△107	15,219	18,726	△3,507
[合計]	17,807	18,126	△319	255,258	270,797	△15,539

利用状況については、全体で利用件数は319件、利用人数は15,539人減少した。

(1) 公民館親と子の交流活動事業

基本目標	豊かな心を育む教育・文化づくり
政策	生涯にわたり学びのあるまちづくり
施策名	生活を豊かにする生涯学習の推進
基本事業名	学習内容の向上
事業概要及び実施状況	<p>○事業概要</p> <p>親と子のふれあい活動での様々な体験活動を通して、子どもの情操を豊かにし、心身の健全な成長を図り、親子のきずなを深めるための講座を開催した。これにより、参加保護者同士の連帯感を高めるとともに、家庭及び地域の教育力の向上を図った。</p> <p>また、児童図書を備えることにより読書の推進を図り、貸出及び読書指導を行った。</p> <p>対象：年長～小学3年生とその保護者 実施日時：土曜日・日曜日 午前9時30分～午前11時30分</p> <p>○実施状況</p> <p>【平成29年度】 年8回 親 181人 子211人 計392人</p> <p>【平成30年度】 年8回 親 185人 子214人 計399人</p>
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度と比較し、平成30年度は延べ7人の参加者増となった。 ・親と子で一緒に参加する講座であることから、土曜日・日曜日と親子で参

	<p>加しやすい講座日時を設定している。</p> <p>・人気のある事業なので、来年度からは、佐野市中央公民館と田沼中央公民館で同内容の講座を開催する予定である。</p>
--	---

(2) 植野地区公民館駐車場整備事業・旗川地区公民館駐車場整備事業

基本目標	豊かな心を育む教育・文化づくり
政策	生涯にわたり学びのあるまちづくり
施策名	生活を豊かにする生涯学習の推進
基本事業名	学習情報及び場の提供
事業概要及び実施状況	<p>○事業概要</p> <p>植野地区公民館で取得している土地について、砂利の敷地で駐車場として利用しているが、舗装した駐車場として整備するよう要望があるため、舗装整備工事を実施した。</p> <p>また、旗川地区公民館の慢性的な駐車場不足を解消するため、現有施設東側の民有地を購入し、旗川地区公民館駐車場として基礎整備工事を実施した。</p> <p>○実施状況</p> <p>植野地区公民館駐車場整備工事 期間：(当初)平成30年6月8日～平成30年8月31日 (変更) ～平成30年9月28日 請負業者：朝日建設(株) 請負金額：18,252,000円 請負率97.74%(当初) 最終請負額：21,330,000円(変更増額：3,078,000円) 工事内容：砂利敷であった駐車場のアスファルト舗装整備に伴い雨水の浸透施設、目隠しフェンス設置、アスファルト舗装、溶融式白線による駐車区画の整備を行った。 (駐車区画 34台、舗装面積 1,048㎡)</p> <p>旗川地区公民館駐車場整備工事 期間：(当初)平成30年12月13日～平成31年3月8日 (変更) ～平成31年3月19日 請負業者：(有)協伸建設 請負金額：18,900,000円 請負率96.95%(当初) 最終請負額：18,748,800円(変更減額：151,200円) 工事内容：農地を駐車場として使用するため、整地し、土留めのため擁壁、水路をまたぐため管渠、雨水排水のため集水柵、目隠しフェンス及び転落防止柵を設置し、トラロープによる区画線、碎石敷きの駐車場整備を行った。</p>

	(駐車区画 30台増(全63台)、碎石敷面積 899㎡)
考 察	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植野地区公民館は、砂利敷きの駐車場であったが、平成27年度に舗装した駐車場として整備するよう要望があったため、アスファルト舗装の駐車場として整備し、利用者の利便性が向上した。 ・ 旗川地区公民館は、既存の駐車場では、台数不足であったため各種事業等の実施の際に問題となっていた。隣接する民有地の買収が決まり、駐車場の拡大整備ができた。 ・ 今後とも駐車場については、利用者の利便性を考慮し、必要に応じて進めてまいりたい。

委員からの意見

- ・ 各公民館の利用者数について、関心を集めた講座、講師等の情報交換等を行い利用者が増加するよう努めてほしい。

前年度の委員からの意見及び報告

【意見】

公民館の講座と生涯学習課の社会教育関係事業で内容が似通ったものがあるので、うまく振り分けて効率的に行えるようにしてほしい。

【報告】

社会教育指導員・公民館活動指導員会議を年1回実施しているので、その中で講座の内容を精査し、効率的な講座開催ができるよう検討する。

【意見】

講座の参加者について男性の参加が少ないので、嗜好や開催時期等を考慮し、多くの方が参加できるように検討してほしい。

【報告】

子供たちが参加しやすいよう、夏休みの時期に子供たち向けの講座の開催も今後も続けていく。

平成31年度から、男性の参加に向けた講座を土曜日に開催する予定である。

4 全体を通しての委員からの意見

委員からの意見

- ・佐野市の話ではないが、最近、大学生で因数分解ができない、小学校時の漢字が書けないという人が増えているという。小中学校で覚えるべきことはしっかりと覚えられるように児童生徒の基礎学力の向上に努めてほしい。
- ・会議の時期を早めていただきありがとうございます。予算が絡むものについては是非計上していただきたい。

前年度の委員からの意見及び報告

【意見】

会議の開催時期を早めることについて引き続き検討をお願いしたい。

【報告】

令和元年度は第1回会議を7月に、第2回会議を8月に予定している。